

## [経営成績および財政状態]

当年度における当社グループを取り巻く状況は、年末までは米国における景気減速の影響が日本、欧州およびアジアの各地域に広がり世界的に景気が悪化いたしました。年明け以降は米国やアジアなどを中心として景気に一定の底入れ感が出てきております。

このような経済環境のもと、当年度はIT関連を中心として需給バランスが大幅に崩れたことなどを背景に企業の投資抑制や在庫調整の動きが続き、当社を取り巻く環境は年度を通して厳しい状況で推移いたしました。現在でも通信事業会社における設備の余剰は依然として解消しておりませんが、年明け以降は海外でのパーソナルコンピュータや携帯電話などの需要に底入れの兆しがみられ、また半導体については在庫一巡により市況に回復の気配がみられました。

### (1) 連結業績

このような状況のもと、当年度におけるセグメント別の状況は次のとおりです。

#### 1. ソフトウェア・サービス

国内では社会システムをはじめとした大規模システムなどの幅広いニーズに答え、システムインテグレーションやアウトソーシングなどのサービスビジネスが堅調に推移し、売上は順調に増加いたしました。一方、海外では欧米において企業のIT投資抑制の影響を受けサービスビジネスの売上が減少し、全体の売上は2兆858億円(前年比4%増)にとどまりました。営業利益は、国内でのサービスビジネスを中心とした売上増と効率化、および海外子会社での構造改革の進捗などにより1,578億円(前年比23%増)となりました。

#### 2. 情報処理

国内では大規模システム向けの大型サーバやファイルの売上が増加したほか、携帯電話についても第2四半期に投入した新機種が好調に推移いたしました。一方、パーソナルコンピュータについては、世界的に需要が前年を大きく下回り、国内においても売上が落ち込みました。これらの結果、国内の売上は前年を下回りました。海外においても、デスクトップパソコン用小型磁気ディスク装置から撤退したことに加えて、米国を中心とした企業のIT投資抑制の影響を受けたことにより売上が減少し、全体の売上は1兆3,853億円(前年比12%減)と大きく減少いたしました。営業利益については145億円(前年比23%減)となりました。

#### 3. 通信

国内を中心にIMT-2000(第3世代移動通信)対応の交換システムや基地局システムなどの売上が増加いたしました。北米をはじめとした世界的な通信事業会社の業績悪化、大幅な投資抑制の影響を受け、光伝送システムを中心として海外の売上が大幅に減少した結果、全体の売上も6,298億円(前年比19%減)と大幅に減少いたしました。利益面では、光伝送システムなどの売上の減少に加え価格低下の影響を受け、724億円の営業損失(前年度は379億円の営業利益)となりました。

#### 4. 電子デバイス

半導体をはじめとした電子デバイス製品全般で需給バランスが大幅に崩れ、過去に例を見ない深刻な在庫・生産調整が起こり、また価格競争も激化いたしました。これらの影響は、フラッシュメモリ、ロジックIC、SAWフィルタおよび化合物半導体など主要品のすべてにわたっており、売上は5,465億円(前年比28%減)と大幅に減少いたしました。利益面においても、売上の減少、深刻な価格下落、および生産稼働率の低下などにより収益性が大きく悪化し、1,093億円と大幅な営業損失(前年度は1,134億円の営業利益)を計上いたしました。

## 5. グループ全体

これらの結果、グループ全体では売上が5兆69億円と前年比9%の減収となり、営業損失で744億円（前年度は2,440億円の営業利益）、経常損失で1,571億円（同1,897億円の経常利益）と大幅な損失計上となりました。さらに、市況および市場構造の急激な変化に対応すべく、電子デバイス、情報処理および通信における開発・製造体制の再構築およびスリム化や、デスクトップパソコン用小型磁気ディスク装置からの撤退など、徹底した構造改革を進め事業構造改善費用を計上したことなどにより、当期純損失は3,825億円（同当期純利益85億円）となりました。

### （2）キャッシュフローの状況

当年度の営業活動により生み出したキャッシュフローは、グループ全体の棚卸資産を2,728億円（前年比約3割減）圧縮するなど事業効率の徹底的な向上に努めたものの、大規模な事業構造改革を実施し大幅な損失を計上したことなどにより3,065億円（同49%減）にとどまりました。一方、投資活動に投じたキャッシュフローは、成長分野への絞りこみを図りましたが4,094億円（同12%減）になり、この結果、フリーキャッシュフローは1,028億円のマイナス（前年度は1,296億円のプラス）となりました。また、財務活動で調達したキャッシュフローは913億円（前年度は1,376億円を返済）となりました。

### （3）第4四半期連結業績

当年度の第4四半期においては、年明け以降から米国やアジアなどを中心として景気に底入れ感が出てきており、在庫調整の終りつつある半導体などを中心に市況回復の兆しがみえ、電子デバイスの当四半期の売上は海外を中心に前四半期より増加に転じ（前四半期比9%増）ましたが、通信分野では米国を中心とした通信事業会社の業績は回復の兆しが見えず、大幅な投資抑制が継続されております。

一方、ソフト・サービス分野を中心として年度末に売上が集中いたしました。国内IT市場全体の本格的な回復にはさらに時間が必要な状態にあり、ソフト・サービスを除く各分野で売上は前年同期実績を大幅に下回り、全体では1兆5,605億円（前年同期比12%減）となりました。しかしながら、利益面では前年同期よりは大幅に減少したものの、営業利益305億円（同78%減）、経常利益135億円（同90%減）と4四半期ぶりに利益を確保いたしました。また、第2四半期より進めてきた構造改革をさらに徹底して実施し事業構造改善費用を計上したことなどにより当期純損失は1,016億円（前年同期は603億円の当期純利益）となりました。

### （4）単独業績

当年度におきましては、サービスビジネスや大型サーバの売上が増加したほか、I M T - 2000対応の交換システムや基地局システムの売上が増加いたしました。また、パーソナルコンピュータや小型磁気ディスク装置の売上が減少したことに加え、北米向けをはじめとした光伝送システムの売上が減少し、さらに電子デバイス製品全般で市況悪化の影響を受け売上が減少したことなどにより、売上は3兆344億円（前年比10%減）となりました。

損益につきましても、需要減少、価格低下などによる売上減少に加え、電子デバイス製品の生産稼働率低下などにより収益性が悪化し、営業損失で546億円（前年度は営業利益1,002億円）、経常損失で815億円（同経常利益1,074億円）を計上いたしました。また、徹底した構造改革を進め、事業構造改善費用、子会社整理損、子会社株式評価損を計上した結果、当期純損失は2,651億円（同当期純利益466億円）となりました。

## (5) 2002年度の業績見通し

当年度(2001年度)におきましては、IT産業は世界全体の景気低迷の影響を受けて、かつてない厳しい状況で推移いたしました。年明け以降は半導体などの在庫調整が一巡するなど、市況に底入れの兆しが出てまいりました。一方で、世界的に通信事業会社の業績低迷、投資の大幅抑制は当面続くと考えられ、また景気の底入れ感の出ている米国でも企業におけるIT投資の本格回復には慎重な見方があります。個人消費についても雇用不安などの不安定要素があり、今後の日本を含めた世界の景気回復の先行きは未だ不透明な状況にあります。

しかしながら、ITの発展に伴う社会の構造変化は着実に進展しており、それに伴うお客様の要求と市場における在庫循環的な要因とにより、今後の成長分野のなかでも短期的に伸びる分野、回復する分野や地域が明確になってきております。

こうしたなかで、当社グループはソフト・サービス分野においてe-Japan関連、アウトソーシング、グローバルに連携したサービスなど、幅広くトータルなソリューションを効率的に提供します。また、従来の通信と情報処理を統合したプラットフォーム分野においては、これからのネットワーク時代を支える、当社のソリューションの強みともなるインフラ商品群、高速IPルータ、ネットワークサーバ、ファイルなどを新しいコンセプトの元で提供します。電子デバイス分野ではモバイル、AV関連を中心に米国・アジアなどの市況の変化に対応してタイムリーに商品を提供します。

また、当年度(2001年度)において当社グループは大規模な事業構造改革を進めましたが、さらに2002年度は環境変化に機敏に対応するための改革の手綱を緩めず、目前の成長分野へのタイムリーな選択と集中と経営体質の強化を図り、IT産業における今後の構造変化をリードし、中長期的な成長基盤の確立を目指してまいります。

これらを踏まえ、現時点における2002年度の業績見通しは以下のとおりといたします。

### 連 結

|       | 中 間 期               |  | 通 期               |
|-------|---------------------|--|-------------------|
| 売 上   | 23,200億円(前年同期比 3%減) |  | 52,000億円(前年比 4%増) |
| 営業利益  | ▲ 300               |  | 1,000             |
| 経常利益  | ▲ 800               |  | 50                |
| 当期純利益 | ▲ 400               |  | 0                 |

### 単 独

|       | 中 間 期               |   | 通 期               |
|-------|---------------------|---|-------------------|
| 売 上   | 13,000億円(前年同期比 9%減) |   | 30,000億円(前年比 1%減) |
| 営業利益  | ▲ 550               |   | 0                 |
| 経常利益  | ▲ 700               | ▲ | 350               |
| 当期純利益 | ▲ 100               |   | 0                 |

上記見通しには、主要市場における製品・部品の需給動向(日本および欧米など)、為替相場、日米の株式市況などに不透明な面があり、実際の業績は見通しと異なる場合がありますことをご承知お願います。